

○荻原市長冒頭あいさつ

(10月16日(月)総合福祉センター大ホールにて)

皆様こんにちは。市長の荻原です。本日はご多用の中、まちづくり懇談会に出席いただきありがとうございます。開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

私は、本年2月26日に市長に就任してから初めて懇談会を開催させていただきましたが、就任当初から市政運営にあたっては信頼と安定が不可欠という信念のもとに、市民の皆さん方がお持ちの感覚、あるいは視線を念頭に置きながら驕ることなく謙虚に、そして誠実な市政運営に努めていくことを肝に銘じて本日に至っており、今後もこの基本姿勢を貫いてまいりたいと考えています。

さて、市政運営については、まさにまちづくりそのものと思っています。まちづくりは、まちの魅力を高めるために様々な活動をするものですが、その活動の基となるのが行政の各種計画であり、その最高位にあるのが芦別市総合計画です。現在の総合計画は平成22年に10か年の計画として策定し今年で8年目を迎えています。この計画を基本にまちづくりに取り組んでいるところです。しかしながら、現在と計画策定時を比べると人口減少、さらには少子高齢社会といった状況が進行していき、社会経済環境も大きく変動しています。平成32年度にスタートする第6次計画については、策定準備に入る段階も近づいていますので、今後、折に触れまして市民の皆さんとしっかりと協議させていただき、新たな将来像づくりに取り組んでまいります。

また、昭和43年に制定した市民憲章は来年で50年を迎えます。市民憲章については市民としての心構えですが、まちづくりに関しては、豊かで住みよい文化の輝くまち、これを築くことが求められているところです。このことが、今を生きる私たちの使命であり、そのためにしっかりとまちづくりに対する情熱、そして行動することによって次代に引き継いでいく責務があると認識しているところです。そのうえで、まちづくりについて申し上げますと決して行政の力だけでは動きません。市民の皆様、企業の皆様、そして地域の皆様と一体となって、官民一体、オール芦別で力を合わせ、総力をあげて取り組んでいくことが重要であると考えています。

今回、行政として市民として、また、企業、地域としてそれぞれが担っていただく役割の中で情報共有を図るとともに、しっかりと連携したまちづくりを目指していきたいと考えています。

私は、まちづくりにおける手段の一つとして行財政改革の推進を公約に掲げています。詳細については、後程担当より説明させていただきますが、本市を取り巻く社会経済環境は厳しいですが、逆に、そのことを好機として捉え、改革と成長を合わせた芦別創生を目指したいと考えています。芦別には、力強く伸びる成長力を秘めた潜在力が多いにあると確信しています。それは、豊かな自然に恵まれ、自然災害や地震が少ない安心・安全な土地柄、特に農産物等の食に関しては他に引けを取らないと考えています。今後、地域資源を効果的にそして有機的に結合させてブランドとして発信することで、地域の活性化に繋げていきたいと考えており、十分に可能性があると思っています。

現に、小型ベアリング用の鋼球製造企業で大阪に本社がある大旺鋼球製造(株)ですが、工場部門を大阪から上芦別町に移転し、工場の増設と合わせて従業員住宅についても建設することから、相当数の従業員が増員されるという話をいただき、現在、建設工事が行われています。社長の話によると、何よりも芦別は自然が素晴らしいこと、地震などの自然災害が少ないこと、加えて、食が大変おいしいことが移転を決定した理由であるとのお話をいただきました。本市にとりましては企業の振興、雇用の拡充、さらには地域経済の活性化に繋がることから大変ありがたいと思っています。

また、新たに東京に本社があるソフトウェア会社が、本市の自然の良さが決め手となり年内に進出していただけることが確定していることを朗報としてお伝えさせていただきます。この様に芦別には、まだまだ人や企業を呼び込める可能性があり、むしろ備わっていると実感しており、このような事例を今後に生かしていきたいと考えています。

また、観光や合宿の里事業等の交流人口の拡大、移住・定住の促進、農林業などの基幹産業の促進、振興と合わせて人材の確保対策を進め、さらに地場産業が成長できる環境づくりに繋げるため、行財政改革に取り組みたいと考えています。

本日の懇談会については、市が直面している行政課題を説明し、市政全般についてご意見をいただき、市民の皆さんと一緒に、市と市民の皆さんにとって最適で有益なことは何かを創造しながら、市政に活かしていきたいと考えています。是非、忌憚のないご意見をいただき有意義な懇談会となるようお願い申し上げます。